

新たな市民参加の手法について(案)

1 市民参加の現状と課題

西東京市では、平成 14 年 10 月に制定した市民参加条例に基づき、附属機関等への市民委員の登用や、パブリックコメントの実施、市民説明会の開催など、計画策定や条例制定等を行う際の市民参加を積極的に進めてきており、一定の成果が見られています。

しかし、一方で参加者数や参加者層の偏りや固定化といった課題もあることから、幅広く、より多くの市民の参加が得られ、より効果的に市民の意見を取り入れることができるような仕組みづくりについて、さらに工夫を行う必要があります。

そこで、これまで市民参加の経験のない市民にも参加を促し、幅広い層の市民の参加が得られる方策として、「無作為抽出方式」による市民参加の導入を考えています。

2 無作為抽出方式による市民参加の効果

無作為抽出方式による市民参加は以下の効果が期待できると考えています。

- (1) 住民基本台帳に基づいて、公平無作為に参加候補者を抽出するため、地域の偏りがなく、また、幅広い年齢層の市民に参加を促すことになり、多様な意見を求めることができる。
- (2) 現状では市政に対して意見や要望をいう機会や意識・意欲が少ないと想定されるサラリーマン等の多数の市民(いわゆる「サイレントマジョリティ」)の意見を吸い上げることができる。

不特定多数に向けられている市報等の従来の周知方法に加え、特定個人宛の通知を受け取ることにより、市民参加への意識が低い市民にとっても参加を促すきっかけとなることが期待できる。

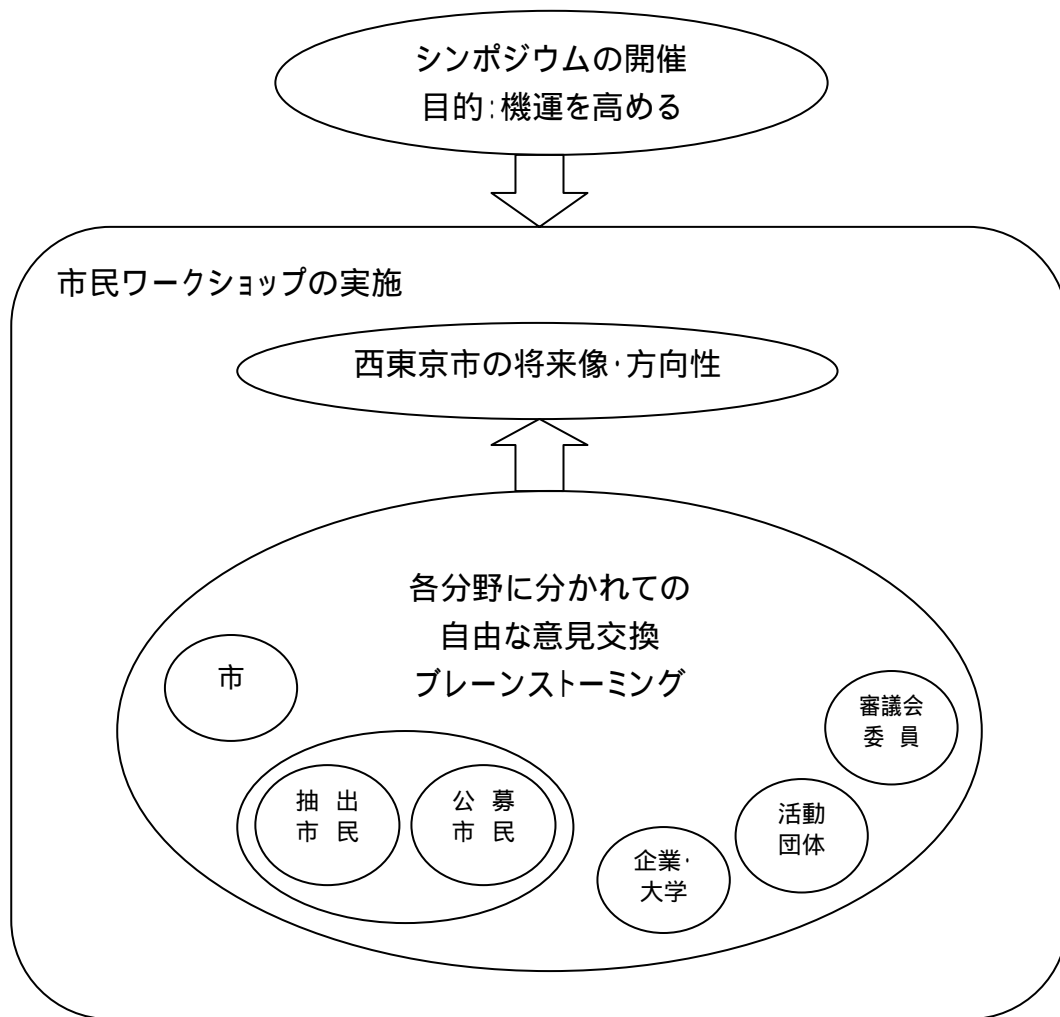
3 西東京市版新たな市民参加

市政への関心(計画策定への関心)の機運を高めるために、まず、シンポジウムやフォーラム等を開催し、できるだけ多くの市民に市政に対して関心を持ってもらうことから取組みを行い、シンポジウムなどに参加することにより、参加者及びその周囲の方々が今後の市政に関心を持つきっかけづくりとし、市民ワークショップへとつなげたいと考えています。

シンポジウムや市民ワークショップを実施するに当たっては、無作為抽出による市民とあわせ、公募による市民や審議会委員も加わり、また、市内で活動している団体や企業、大学にも参加いただくことで、より幅広い市民(団体)による市民参加の手法とします。

また、ワークショップの実施にあたっては、現行の総合計画の6つのまちづくりの方向に沿って各分野に分かれて意見を出し合ってもらい、西東京市の現状の認識や課題の共有を図るとともに、市の将来像や方向性を描いていきたいと考えています。なお、ワークショップを成功させるためには、参加者が自由に意見を言い合える「場づくり」をすることが大事であり、また、より自由で活発な意見が出るよう、ブレインストーミングなどを用いることが大切であると考えています。

【西東京市版新たな市民参加】



プレーンストーミングとは

何人かの人が集まって、自由なくつろいだ雰囲気の中で、一定の原則の下に意見やアイデアを出し合い、良い結論を得ようとする会議。この会議の方式には、各人の発言について、良い、悪いという判断をしないこと、発言は、自由奔放なもので良いこと、発言の量を重視し、発言は多いほど良いこと、他人の発言を組み合わせ、これを更に発展させた発言をしても良いことというルールがある。